

日本ビオトープ協会 2019

ビオトープ No. 44

特集「水辺のビオトープ:河川」



カワセミ
(北海道サロベツ原野)
写真 内海 千樫 氏 提供



特定非営利活動法人

日本ビオトープ協会

巻頭言

水辺こそ原点・河川のビオトープ

野澤 日出夫 1

特別寄稿

河川の生態学—伝統的河川工法・柳枝工を再考する—

山田 辰美 2

シリーズ連載

ビオトープのいきものたち —その30— 河川に生息するトンボたち

神垣 健司 6

会員・BA等投稿

ユルリ島の馬

内海 千樫 8

Bangladesh・クルナ市の生物多様性保全と人材育成へ向けた取組み

佐藤 秀樹 10

協会活動状況

各地区委員会〈8地区〉活動 計画・報告等

／協会活動 お知らせ、報告

各地区委員長／協会事務局 12

第11回ビオトープ顕彰 委員長講評・各賞紹介 17

連載コラム

「ビオトープを知る、五つのヒント」

その5 ふたたび 環境リテラシー: 答えは自然にあり

立川 周二 20

◇表紙・裏表紙写真の説明◇

・表紙「カワセミ」

どこのビオトープにも来てほしい鳥ですね。清流に住む鳥として、環境のバロメーターになっており、旭川市の石狩川で、カワセミが巣穴を掘り進むために入り口の穴をあけた護岸ブロックが設置され、効果がありました。

・裏表紙「ミズバショウ」

「夏の思い出」の歌で知られ、山地帯から亜高山帯の湿原や林下の湿地に分布し、冷涼で清らかな印象ですが、アルカロイドを含み、食べると吐き気や脈拍の低下を引き起こします。

撮影: 内海千樫氏

北海道 幌加内ビオトープ研究会代表、日本ビオトープ協会会員、
幌加内町在住

